

知床五湖の利用のあり方協議会（第 3 1 回） 議事録

【日時】 平成 2 5 年 1 2 月 5 日（木） 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0

【場所】 知床世界遺産センター レクチャールーム

【議題】

- (1) 知床五湖利用調整地区 利用適正化計画の改定について
- (2) 平成 2 5 年度登録試験結果について
- (3) その他

資料：

- 資料 1 - 1 知床五湖利用調整地区制度（ヒグマ活動期）の変更について(案)
- 資料 1 - 2 ヒグマ活動期五湖 F H 観察記録
- 資料 1 - 3 知床五湖利用調整地区利用適正化計画（改定案）
- 資料 2 - 1 平成 2 5 年度登録引率者登録試験の実施経過
- 資料 2 - 2 平成 2 6 年度登録引率者名簿（予定）
- 資料 3 - 1 2 種のキャンペーン実施結果について

- 参考資料 1 知床五湖利用調整地区 平成 2 5 年度立入実績
- 参考資料 2 知床五湖園地利用者数の推移（平成 2 0 年～ 2 5 年）（速報）
- 参考資料 3 知床五湖地上遊歩道閉鎖状況一覧（平成 1 6 年～ 2 5 年）
- 参考資料 4 第 1 8 回知床五湖登録引率者審査部会議事概要
- 参考資料 5 第 3 0 回知床五湖の利用のあり方協議会議事録(案)

【議事概要】

環境省(中島)： 前回の協議会においては、本年度の立入実績や実験結果から、次期利用適正化計画の変更方針について議論した。これらの議論を踏まえ、登録引率者審査部会において改定案をまとめた。今回はこの改定案に意見を頂き方向性を示す必要があるので、ご議論をよろしく願いたい。

環境省(松永)： 前回の協議会でも指摘があったが、今年度の利用実績がまとまったので、説明したい。

参考資料 1：知床五湖利用調整地区 平成 2 5 年度立入実績 説明

- ✓ 今年度の入込み実績はヒグマ活動期、植生保護期ともに昨年、一昨年を上回る結果となり、総計は 69, 000 人を超えた。

参考資料 2：知床五湖園地利用者数の推移（平成 20 年～25 年）（速報） 説明

- ✓ 高架木道の入込者数は、ヒグマ活動期において前年比 104%、植生保護期では前年比 93.8%となった。
- ✓ 乗用車と大型バスの入込数は 8 月、9 月において昨年より減少した。

参考資料 3：知床五湖地上遊歩道閉鎖状況一覧（平成 16 年～25 年） 説明

- ✓ 今年はヒグマの出没が少なく、ヒグマ活動期の遊歩道閉鎖は 3 回であった。

知床財団（秋葉）：シャトルバスの乗車人数は統計に含まれているのか。

環境省（松永）：「入込個人」の中に含まれている。

資料 1-1：知床五湖利用調整地区制度（ヒグマ活動期）の変更について（案） 説明

- ✓ 増枠、2 ルート併用、追い越しの実施に関し、これまでの議論と実績を整理し、変更の概要案を提示。
- ✓ 増枠は、しっかりとした理念のもとに実施するという事を協議会として認識したい。
- ✓ 小ループは、大ループの補足的な位置づけで、1 時間当たりの大ループの枠の 1 つを小ループに振り分けるようなイメージで運用をスタートしたい。
- ✓ 2 ルート併用については、計画上同時出発を可能にはしているが、来年度の運用に関しては審査部会において議論したい。

資料 1-2：ヒグマ活動期五湖 F H 観察記録 説明

- ✓ 制度改定により F H の運用面で支障がないかを記録した。
- ✓ 黄色部はスタッフが手一杯の状態、赤部は対応しきれず仕事が溢れてしまった状態。
- ✓ 電話対応やガイドツアー申込み対応で 1 人工とられた際に仕事が溢れるケースが多く、円滑な運用ができなくなる場合が発生する。
- ✓ 受付手続きや無線交信は重複する時間が発生するが、各々のやり取りは短く区切られており、運用としては可能である。

資料 1-3：知床五湖利用調整地区利用適正化計画（改定案） 説明

- ✓ 現行の計画は平成 22 年に策定されたもので、利用調整地区導入前のもの。
- ✓ 制度面、施設面などの状況が変化した。3 年間の運用実績を踏まえ、第 2 期の計画として改定する。

知床斜里町観光協会（代田）：認定者数について 1 時間当たり 77 人と、1 日当たりの上限 500 人との整合性はどうなっているのか。

環境省（松永）：終日 10 分間隔でツアーを設定した際、日単位の入込数は単純計算で五百数十人となる。ただ、登録引率者数が不足傾向にある中で、ツアー枠が空いているにも関わらず引率者がいないためにツアーを催行でいないといった事態は避けなければいけない。

500人とした理由は、第一に、改定後すぐの段階で10分間隔のツアー設定は物理的にできないと見込んだこと、第二に、仮に300人から2倍の600人としたときに、利用者にとっては枠が2倍に~~と~~なって利用しやすくなると思う。しかし、枠が増えたのに引率者の不足によりツアーが催行されないという事態は良くない。この2点から500人とした。

また参考として、今年度の増枠実験を行った時のツアースケジュールは、昼の時間帯以外はほぼ10分間隔で設定されていた。事実上想定される上限立入人数の341人に対し、最大の立入があったのは、7月14日の321人である。来年度はこれに加え、1時間1本の小ループツアーが8枠加わると想定すると、最大で(341+88=)429人となる。これでもなお大ループの設定の余裕があるという状況である。

知床エコツーリズム推進協議会（上野）：小ループの料金設定は目安を立てて議論していくのか

環境省（松永）：まだ具体的な数字が決定しているわけではないが、審査部会において議論を始めている。時間や内容に見合った料金設定、引率者としては事業として成立する料金設定を望むといった意見が出ている。

知床財団（秋葉）：補足する。小ループのツアーは、当日受付専用の取り扱いで開始すると理解している。だとするとツアー料金は統一する必要がある、議論の上結論をまとめる必要がある。

知床エコツーリズム推進協議会（上野）：小ループツアーが一般的になるとすれば、事前予約の必要性も出てくる。そういったことも想定した運用を考えて頂きたい。

環境省（松永）：現場レベルでは現行制度が定着したとはまだ言えない。制度としてのわかりやすさも十分に考慮しつつ、事前予約のあり方も考えていかなければいけない。

環境省（中島）：今回利用適正化計画の中に書き加えられたのは、大ループ及び小ループの2ルートが設定できることである。実際の運用として、小ループは1時間に1本程度のスケジュールでスタートする。

具体的なスケジュールや申込みの方法等については、比較的自由な書き方となっているので、運用を柔軟に改善することは必要に応じて可能である。

ウトロフォーラム21（小川）：小ループツアーは、当日受付の専用枠としてとりあえず始めるが、事前予約もできるようになれば実施するという解釈でいいのか。

環境省（松永）：そういう体制がとれるようであればするかもしれないが、現時点では何とも言えない。

ウトロフォーラム21（小川）：小ループのツアーを望む利用者もいるし、長い距離を歩けない利用者もいる。できるだけ利用者のニーズに合わせた運用をお願いしたい。

環境省（松永）：詳細な運用面については、徐々に検討していければと思う。

環境省（中島）：資料1-1の内容で利用適正化計画を変更することにご承認いただいてよろしいか。

一同：資料1-1承認

環境省（中島）：では次に、資料1-3の改定案についてももう少し詳しくご説明し、ご意見を頂きたい。

<追加説明>資料1-3：知床五湖利用調整地区利用適正化計画（改定案）

✓ 赤字の改定部分について説明

知床財団（寺山）：6ページの外国人利用者への対応に関する部分が削除されているが、現場ではこの部分は重要であると認識している。何らかの形でこの部分は残していただきたい。

環境省（松永）：外国人の利用に関しては、パンフレットや看板等を多言語化したため改定案からは削除したが、更なる外国人利用者への配慮という面からも残してもよいかもしれない。

自然公園財団（青木）：外国人対応に関しては、6ページに加え9ページにも記載されている。知床観光全体の課題なのでわざわざ利用適正化計画には載せなくてもよいのではないか。

環境省（中島）：今までの議論を踏まえて、事務局で整理させていただきたい。

知床財団（寺山）：16ページの登録引率者の定義についてであるが、この3年間で引率者にヒグマ遭遇時の判断がゆだねられ、責任が明確化した結果、運用の自由度が広がったという経緯がある。登録引率者は、ヒグマのリスクに対する判断や責任を有するといった表現を加えたほうがいいのではないか。

環境省（松永）：登録引率者の有する責任については、審査部会などで議論を重ね、確認している。利用適正化計画は登録引率者の審査試験の引用資料にもなるので、責任の部分を明文化し、改めてしっかり認識してもらうことも大事。

知床ガイド協議会（岡崎）：責任が伴うという意識を持たせるには、明文化することはよいかもしれない。

環境省（中島）：責任に関する内容を明文化したい。

環境省（中島）：8ページの計画の見直しについて、「毎年度」から「3年ごと」に変更する案であるが、「3年ごと」ではなく、「必要に応じて」という書き方ではどうか。

ウトロ地域協議会（松本）：「3年ごと」と記載してあるのに、その下の（理由）の部分では「過年度」となっており矛盾している。「必要に応じて」でよいと思う。

知床財団（秋葉）：3年という期間にこだわるわけではないが、モニタリングの目安として何らかの区切りを設けて評価をする機会があったほうがよい。

環境省（中島）：モニタリングが実施されなくなるのが心配ということか。

知床財団（秋葉）：例えばアンケートは毎年やるのではなく、少し期間をおいてもよいので

はないかと言われている。そういった時に、3年ないしは5年といった区切りを持つことでチェックする機会になるのでは。

環境省（松永）：利用調整の期間の見直しに関しては適時として、モニタリングの部分は定期的に行うといった縛り方もあるかもしれない。

ウトロ地域協議会（松本）：3年という数字は残してもいいと思う。ヒグマや人の状況は常に変化するもの。ある程度やってきた中で状況を踏まえながら見直していくという考えはよいことだと思う。モニタリングは一定のスパンでやっていくことが大事。

知床エコツーリズム推進協議会（上野）：モニタリングは年次の要件が非常に大きい。手法の研究を含めてしっかり位置づけたほうがよい。利用調整地区制度全体として、ヒグマや植生に関するモニタリングを行っていくことが重要。

環境省（松永）：コスト面ではアンケート等の一部を除き大きな負担ではない。定期的なものは今後も毎年実施する。

環境省（中島）：12ページでモニタリング実施者未整理とあるが、コストがかからないものに関してはモニタリング実施計画に基づき継続的に実施されていくが、コストがかかるものに関しては実施者が未整理ということなのか

知床財団（寺山）：11ページにあるモニタリング項目の中の、「インターバルカメラによる渋滞状況把握」は今年度実施されていない。重要な項目に関してはしっかりと整理し計画を立てて実施していくことが望ましい。特に、運用面では3年間で安定してきた。今後は、五湖の制度を知床全体にどう波及させ、全体に適用していくかが課題となる。そのような意味では、周辺を含めた影響、調査、検討はさらに重要になってくるものだと思う。

ユートピア（千葉）：見直しの期間は「必要に応じて」とし、協議はその都度できる状態にしてもらうほうがよい。協議する内容によっては長い期間が必要なものもある。

環境省（中島）：「3年ごと」では逆に動きが取れなくなる可能性があるので、「必要に応じて」とすれば、直ぐにやれる可能性があるのではないかと。

斜里バス（下山）：認定手数料の見直しについては記載しないのか。

知床財団（秋葉）：金額の設定は、適正化計画には記載されない。

北海道（和田）：この利用適正化計画は3年ごとに見直すという理解でよろしいか。

環境省（中島）：元々「毎年」だったものを「3年ごと」とした。今の議論の中で「必要に応じて」でもいいのではといった意見も出された。

知床財団（寺山）：今までは「毎年」と記載はしているが、実際は3年ごとに変更するというのが共通認識であった。そのことを明文化するかどうかということが論点である。

環境省（中島）：「3年を目安に必要に応じて」ではどうか

斜里バス（下山）：例えば今回導入する小ループは、1年では結果は出ない。3年という区切りはあってもよい。

知床財団（秋葉）：制度を順応的に変えていくという側面と、安定して運用するといった側

面がある。毎年ではなく、ある程度区切りがあったほうがよい。

ウトロ自治会(梅沢)：物事が安定するには10年かかる。3年の区切りがあるのはいい。はっきりと「3年」と明記し見直しをすべき。「必要に応じて」といった表現をすると忘れてしまう懸念がある。

環境省(中島)：色々な意見があると思うので、文章を精査したい。モニタリングの部分に関しては、しっかりとした実施体制を担保する内容が記載されていることを確認した上で、具体的な表現については事務局に預からせていただいてよろしいか。

一同：資料1-3承認

資料2-1：平成25年度登録引率者登録試験の実施経過 説明

資料2-2：平成26年度登録引率者名簿(予定) 説明

- ✓ 既存の引率者は25名全員合格、新規は5名合格
- ✓ 平成26年度の登録引率者は30名の予定

ウトロフォーラム21(小川)：登録引率者の審査基準についてであるが、自然解説のスキルについては審査対象としているのか。

環境省(松永)：ヒグマ遭遇時の総合的な統率力といった面での評価はしているが、自然解説の技術に関しては、制度で審査し担保するものではなく引率者自身が研鑽するものだと考える。ただし、利用者視点では重要な部分ではあるので、引率者の自主的な研鑽を促す仕組み作りについて審査部会で議論をしている。

ウトロフォーラム21(小川)：利用者からは、引率者によって解説の内容が違うといった感想を聞いている。また、地元の参加者からは、解説内容に疑問を感じるといった意見を耳にする。制度の中でやっている以上、少なくとも引率者が間違ったことを言わないように審査して頂きたい。

環境省(松永)：審査部会で検討していく。

資料3-1：2種のキャンペーン実施結果について 説明

- ✓ くまレク見てトクキャンペーンは大成功であったと認識。
- ✓ 利用者の満足度をさらに高めていく取り組みを実施していきたい
- ✓ 町民還元キャンペーンは今後も継続して実施していきたい

フォーラム21(くまレクの協賛店舗として)(小川)：お客様にもおまけ感があり、双方にとって良かったとおもう。

知床財団(寺山)：来年のアイディアもありましたら意見をよろしくお願いします。

その他

知床斜里町観光協会（代田）：知床五湖駐車場の再整備に関して進捗状況を教えてほしい。

環境省（山岸）：来年度に工事を実施。12月17日に役場との協議があり、その中で整合性を持たせる予定。来年度の閉園後に着手することになると思われる。

環境省(中島)：よろしいでしょうか。これにて議題はすべて終了。ご協力ありがとうございました。

以上